

# 守恒SOSネットワークたより



第9号 平成26年2月25日発行  
守恒SOSネットワーク会議

## 2月10日(月) 搜索模擬訓練 直前学習会 「徘徊者と出会ったら、何て声を掛けますか？」

講師：(有)故郷 ふれあい家族 代表取締役 野村美代子さん

2月15日(土)の搜索模擬訓練を前に、道に迷っている認知症高齢者の心理についてお話し頂いた後、数名のグループに分かれて「声の掛け方トレーニング」を行いました。認知症の人は無目的に歩いている訳ではなく、ここがどこかわからない、ここは居心地が悪い、(記憶の中の)〇〇さんがいない、〇〇をしなければ・・・という思いで徘徊をしてしまいます。声を掛けるときは、驚かせず、急がせず、自尊心を傷つけない対応をすること。大勢で取り囲んだりせず、一人の人がゆっくり近づいて相手の視野に入ってから、ゆっくりと穏やかに話しかけること。もし、ご本人の情報(旧姓・出身地・馴染みの場所)があるなら話のきっかけとして利用すると有効とのこと。



ナルホド！実際に徘徊者役・声掛け役になりきってみての気づきもあり、グループで話し合いながら進行了ました。

## 平成26年2月15日(土)第2回搜索模擬訓練 125名参加

曇り空の寒い日でしたが、校区の方を中心に125名の参加で行いました。今回は校区全体を分けせずに搜索してもらいました。声を掛ける練習を促進する意味合いから、校区内のイオン、サンリブ、セブンイレブン、ローソンに訓練の行われている10時から11時の間の対応協力をお願いしたところ、ご快諾頂きました。守恒中学校野球部、守恒小学校に通っているファミリー等若い世代の参加もありました。また希望者にはGPSの情報を、暗証番号を入力して手持ちの携帯電話に接続し、画面を見ながら搜索をして頂きました。当日はお二人の徘徊役の情報を「ちらし」と「もりつネット」に写真入りで配信しました。課題としては、①「徘徊搜索訓練中」の胸から下げるカードが風で巻きつく。(対策としてカードの下部にも紐をつける。)②GPSは何も情報がない状態に比べたら素晴らしい技術だが、搜索の途中で何度も位置の更新が必要なのはタイムロス。③徘徊者の趣味や嗜好などもわかるといい。④通行人に対して「連絡先カード」を渡せるといい。といった声があがりました。ご参加頂いた皆さん、ありがとうございました。



「守恒 SOS ネットワーク会議」2年目の活動が終わりました。これからも、「北九州一住みやすい安心・安全なまち」を目指して、仲間を応援、活動を続けて参りましょう！